

北海道まちづくり研究会
第1回研究会 報告書

有限会社テックワークス
鈴木卓真

■ 目的

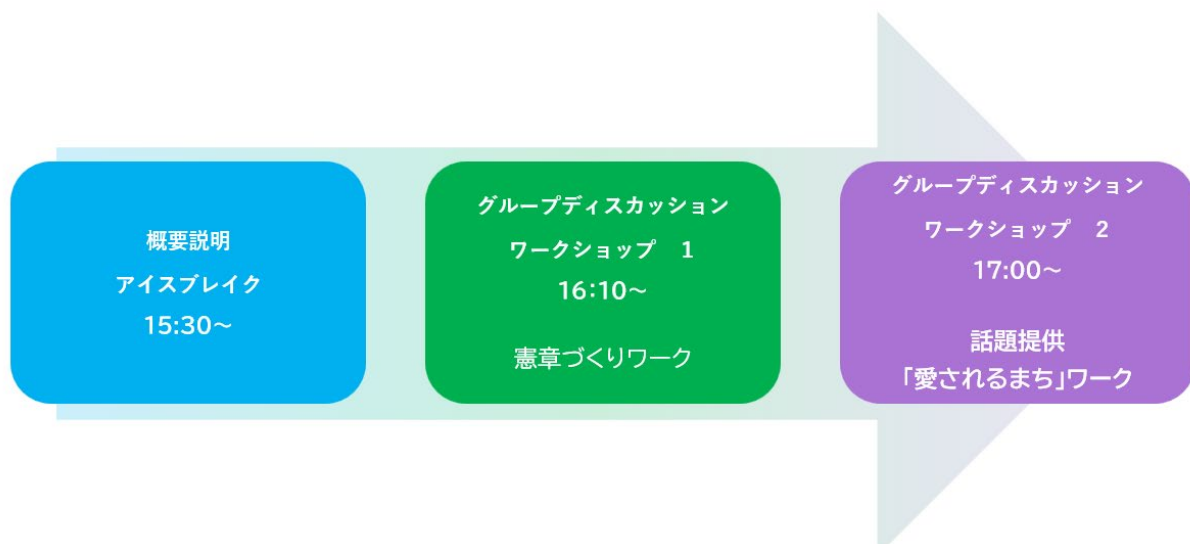
1. 研究会の目指すところを共有する。
2. ワークショップを通して、私たち自身のポテンシャルを見える化し今後のコラボレーションに活かしていく。
3. 都市への集中、田舎への回帰・・・都市や地域としての在り方ではなく、ワークショップでは私たちの暮らしたい「愛されるまち」について再定義する。

■ 概要

日時:2023年07月07日(金)15:00~18:00
場所:札幌センタービル(札幌市中央区北5条西6丁目)
テーマ:私たちの暮らしたい「愛されるまち」について考える
参加者:研究会メンバー 15名

■ テーマの趣旨

近年、気候変動の問題はより大きくなり、農業や漁業など私たちの暮らしへの影響が増してきています。気候変動への対応として、気候変動の速度を緩める「緩和策」と気候変動の影響を受け入れ対処する「適応策」に分けた課題解決に取り組む中、脱炭素社会の効率性だけではなく自然との共生というアプローチをどのように取り込んでいくべきなのかが問われています。私たちの暮らす「まち」をどうすべきなのか、多様な有識者の方々にご参加いただき、グループディスカッションのワークショップを通して考え抜き、まとめ抜くことで、今までにないユニークなアイデアの創出、「愛されるまち」を描くことを目指します。



■ グループ分け（敬称略）

気軽に参加できる雰囲気づくりとして、以下のようなお菓子のグループ名とした。また、座る席は、好きなお菓子の席ということとしたが、あまり効果はなく、話しやすい人同士が集まったように感じました。

参加者の役割及びグループ構成は以下の通りでした。各グループのファシリテーターを☆印で示す。

チーフファシリテーター：鈴木 卓真

◇パイの実グループ：☆ 酒井 裕司、入江 健太、佐藤 大輔、中根 宏樹、石村 心み

◇きのこの山・たけのこの里グループ：☆ 郭 倩、五十嵐 啓子、吉川 福利、大野 雅人

◇コアラのマーチグループ：☆ 池ノ上 真一、白鳥 健志、戸根谷 法雄、吉本 眞知子、弓野 詩苑



■ ワークショップの進行について

今回のワークショップは、3つのパートに分けて行いました。

1. グループディスカッション 概要
2. グループディスカッション ワークショップ 1
3. グループディスカッション ワークショップ 2

■ 「1. グループディスカッション 概要」について

ワークショップの趣旨説明および全体のルールについて説明を行いました。

<p style="text-align: center;">グループディスカッション 概要</p> <h3>テーマ</h3> <p>私たちの暮らしたい「愛されるまち」について考える</p> <p><small>近年、気候変動の問題はより大きくなり、農業や漁業など私たちの暮らしへの影響が増えています。気候変動への対応として、気候変動の速度を緩める「緩和策」と気候変動の影響を受け入れ対応する「適応策」に分けた課題解決に取り組む中、高度社会の効率性だけでなく自然との共生というアプローチをどのように取り込んでいくべきなのか問われています。私たちの暮らす「まち」をどうすべきなのか、多様な有識者の方々にご参加いただき、グループディスカッションのワークショップを通して考え抜き、まとめ抜くことで、今までにないユニークなアイデアの創出、「愛されるまち」を描くことを目指します。</small></p> <p style="text-align: right;">©Takuma Suzuki, 2023</p>	<p style="text-align: center;">グループディスカッション 概要</p> <h3>グループディスカッション グラウンド・ルール</h3> <p>方法：広げて、まとめる</p> <p>ルール：</p> <ul style="list-style-type: none">・自分ゴトとして考える・トピックから離れない・人の意見を否定しない・人の意見に乗っかる・質より量を追求する <p><small>※IDEO社の7つのルール帯を参考</small></p> <p>記録：付箋紙と模造紙を利用します</p> <p style="text-align: right;">©Takuma Suzuki, 2023</p>
--	--

アイスブレイクとして、自己紹介を行った。自己紹介のルールとして、お名前や所属のほか「住んでいる地域の好きなところ」を話していただきました。

アイスブレイクの主たる目的は、グループメンバーとのディスカッションの雰囲気をつかんでいただくことに加え、付箋紙の使い方を意識し、ウォーミングアップをすることにありました。

問いを「住んでいる地域の好きなところ」にした目的は、参加者の視野の広さや価値観をお互いに知ることにありました。漠然とした問いに戸惑う参加者もいましたが、皆さん楽しんで活発に会話をしていました。



■ 「2.グループディスカッション ワークショップ 1」について

「愛されるまち」についての「憲章づくりワーク」を行いました。個人で考えてから、グループ内で議論し、同じような意見をグルーピングして、最終的に3つの憲章にまとめ発表を行いました。

◇パイの実グループ

第1章：すべての人を受け入れるまち

第2章：ありのままの自然を受け入れるまち

第3章：人と自然の関係を受け入れるまち

◇きのこの山・たけのこの里グループ

第1章：ふれあいと思いやりのあるまちにしましょう

第2章：クリーンでグリーンなまちにしましょう

第3章：健康で文化的なまちにしましょう

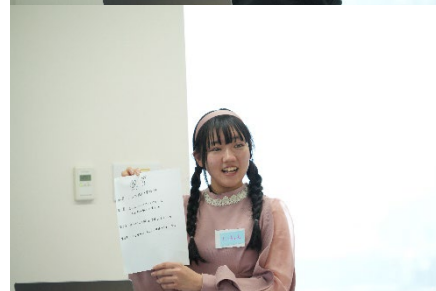
◇コアラのマーチグループ

第1章：人の多様性を尊重する

第2章：人と人とのつながりを大切にし、その町の魅力を楽しむ

第3章：次世代の活躍を応援し支え合う

第4章：人も生物の一員として環境をともに守る



最後に、酒井裕司さんに講評をいただきました。



多様性。さまざまなことや人を受け入れ、認め合える余裕が大切。自然、環境、緑、自分たちも生物の一部として生きている。環境が大切で、それがないと町にならない。この2点は共通していた。

次世代、文化、それもやはりその人と人とのつながりや環境があつてのこと。これからの時代に大切なとこをみなさん見ていると感じた。

■ 「3.グループディスカッション ワークショップ 2」について

1つめの話題提供を「気候変動と北海道への影響」と題して大野雅人さんにいただきました。



目次

1. 日本の気候の長期変化
2. 日本の短時間強雨の変化（1976～2022年）
3. 北海道の気候の長期変化（過去100年間）
4. 21世紀末（2076年～2095年）における北海道の平均気温の変化
5. 北海道の短時間強雨の長期変化（過去30年間）
6. 地球温暖化による北海道の気象の変化
7. 北海道に接近する台風の特徴の変化

2つ目の話題提供を「気候変動 課題解決の視点」と題して鈴木卓真が行いました。



気候変動 課題解決の視点

緩和策

気候変動の速度を緩める

- 温室効果ガスの排出を抑制
- 1. 再生可能エネルギーの利用促進
 - 2. エネルギー効率の向上
 - 3. 持続可能な交通手段の促進
 - 4. 森林保護と再生
 - 5. 工業プロセスの改善
 - 6. 農業と畜産の持続可能性の向上

適応策

気候変動の影響を受け入れ対処する

- 7. 水資源管理の改善
- 8. 農業の多様化
- 9. 都市計画の変革
- 10. 海面上昇への対策
- 11. エネルギーの転換

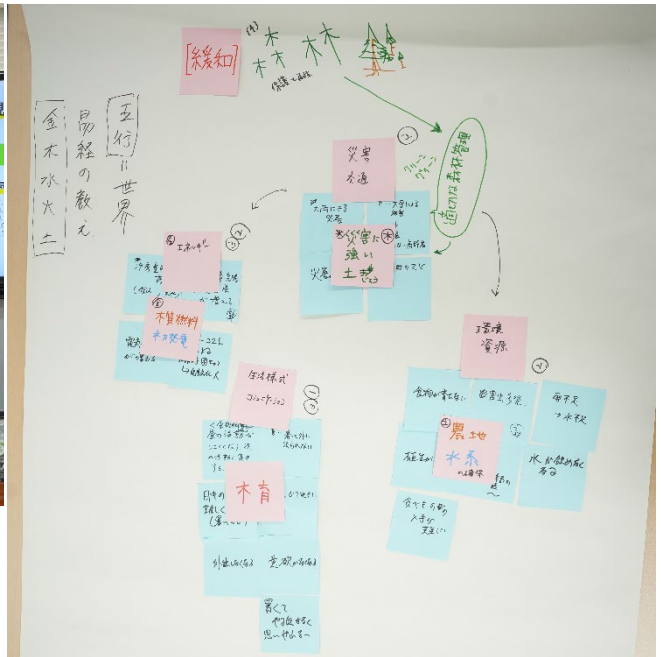
©Takuma Suzuki, 2023

その後、各グループでは、憲章を意識しながら未来を描くワークとして、気候変動や自然との共生を切り口に、より具体的に「愛されるまち」について考えました。

◇コアラのマーチグループ



◇きのこの山・たけのこの里グループ



◇パイの実グループ



最後に、池ノ上真一さんに総括をいただきました。



バーチャルな北海道の愛されるまち。もしかしたらパターン化、いくつかのタイプに分けることになるかもしれない。1年後にもう一回同じことやったら違うもの出てくるかもしれない。その変化を楽しむというのも面白いかもしれない。今日が第1回成果ということで見ていただければありがたい。皆さん、さすがだなというご意見をたくさん出していただいて面白かったかなと思いますので、ぜひ続けていきたいなと思います。

